

さあ2020年！鹿屋で「がこしま国体・大会」開催！

市長 市内では、バレーボール（成年女子、精神障害者の部）、ポート（主種別）、自転車（ロード・レース）が開催されるほか、デモンストレーション競技でのスポーツウエルネス吹矢も行われます。施設の整備等も順調に進んでいて、昨年9月に開催したリハーサル大会で問題や課題も確認できたので、本番は万全の体制で臨めると思っています。

国体に関しては、地元の皆さんのおもてなしや子どもたちの「花いっぱい運動」があり、会場での様々なボランティアも募っています。より参加しやすい仕組みを作り、市民の皆さんにも色々な形で国体に参加していただきたいと思っています。



国体リハーサル大会での市民本選によるおもてなしの様子。本選大会でも全国から多くの選手・関係者が鹿屋を訪れる。

松下学長 市内で開催されるバレーボール（成年女子）では、本学チームも期待できると思います。ほかにもカヌー、自転車競技、剣道などで鹿屋島県代表として期待の選手がいる

浴び、障がいのある方が一生懸命スポーツに取り組む姿に多くの方が感動しています。市では、11月に「パラスポーツフェスタ」を初開催したほか、競技用車いすを購入し貸し出しを始めました。全国障害者スポーツ大会に市内からも選手が出場しているの、一生懸命スポーツに取り組む姿を我々としても支えていきたいと思っています。障がい者の方たちが健常者と一緒にスポーツを楽しめる環境を整え、その輪を広げたいです。

それぞれが思う「スポーツの魅力」

市長 昨年はラグビーワールドカップで日本中が大変盛り上がりました。スポーツは人々を感動させるものだと改めて強く感じました。スポーツを「する」側とすれば、スポーツは絆を作り友情を育み、人生を豊かにするものだと思います。トップアスリートを育てることも重要ですが、それ以上に多くの方がスポーツに親しみ、健康づくりと仲間づくりをできるのがスポーツの大きな力だと思っています。今後も市民の皆さんが身近なところでスポーツに親しめるような環境づくりをしなければと思います。

私自身はロードバイクでの運動を楽しんでいます。自転車だと遠くに



毎年4月に市内の各団体が協力して開催する、鹿屋体育大学の新入生歓迎会。市外出身者の多い学生が、鹿屋の食を楽しみ、市民・地域と交流できる場となっている。

行けるだけでなく、ひざに負担をかけずに運動できるなど、良いことが多いですよ。

松下学長 私は最近ゴルフをしているのですが、止まっているボールを中々うまく打てません。私より年配でゴルフが上手な方からは、「練習はうそをつかない」と教わりました。これはスポーツの魅力でもあると思います。ほどほどの練習では、ほどほどにしかならないですが、ちゃんと練習すれば上達できるんです。

今までスポーツといえば、競技スポーツでの挑戦や健康づくりなど「する」ことが中心でした。でも、スポーツを「みる」ことは、感動をもたらすことができます。スポーツをみる楽しさや見方を、今後教育していくべきだと思います。多くの方がスポーツの結果だけを見がちですが、本当は結果の前の部分が面白いのか



ます。他県代表で出る学生もいます。が、頑張るなどとは言えないです（笑）。

市長 体大の皆さん以外でも、本市出身で活躍が期待される選手がたくさんいるので楽しみです。ボクシングでは現在国体など5冠を達成している鹿屋工業高校の荒竹一真選手が優勝してくれると思っています。鹿屋でトレーニングに励んでいる岡澤セオン選手も活躍するでしょう。ポートの上京未来選手は輝北町の出身。輝北ダムが会場なので、まさに地元中の地元の選手として活躍

していただきたいです。自転車のプロチーム「シエルブルー鹿屋」には体大を卒業した選手が多くいます。私たちとしては、市民に夢と希望を与えるようなパフォーマンスを期待しています。

鹿屋体育大学と鹿屋市 オリンピックとの関わり

松下学長 実は、鹿屋体育大学ができてから20年間はオリンピックが生まれませんでした。平成16年のアテネ五輪で、競泳女子800m自由形に柴田亜衣さんが出場して、あれよあれよという間に金メダルを取ったのが最初です。国立大学法人となったスタートの年に金メダリストが出て、大学にとってこれほどうれしいことはありませんでした。それから、北京、ロンドン、リオにも次々と選手が出場しました。



学内にあるNIFSギャラリーでは、体大ゆかりのオリンピックに関するパネルやユニフォーム、オリンピックの資料など様々な展示品を見学できる。

今年のオリンピック・パラリンピックでは、オリンピックを出すだけでなく、本学ではオリンピック

もしもルールを教えることにはもちろん、素晴らしいプレーやパフォーマンスの魅力を伝えていければ、スポーツをみて楽しむ方がもっと増えると思います。

「スポーツのまちかのや」今後の連携と展望

市長 鹿屋体育大学は「鹿屋の宝」だと思います。この宝に触れて磨くことで、その価値を高めていくことが、私たち行政や市民の役割だと思っています。鹿屋体育大学があり、こういう素晴らしい施設があることを誇りとして、今後もしっかりと連携させていきたいです。

松下学長 うれしいですね。これまでも、地域や市の方々は本学に手を差し伸べてくれていました。入学式の日の夜に新入生歓迎会をまちの中で盛大に催してもらうなど、全国探しても例がありません。

スポーツによる連携は、これまでやってきたことが基本だと思えます。少子化や学校の先生・クラブ指導者などの働き方改革といった問題もあります。市から大学に求められれば可能な限り協力していきたいです。今までの連携を強化・継続することが文化として根付いていく基本になるでしょう。

ムーブメントを国内外に広める広報活動を行っています。色々な種目を紹介したり、学内ギャラリーでオリンピックの歴史等を紹介する展示をしたり。平成26年からはアジアのスポーツ関係者にオリンピックチームメントを学んでもらおうと「国際スポーツアカデミー」を開催し、41か国の約160名が巣立っています。

市長 市はホストタウンとして、タイ王国の女子バレーボールナショナルチームのオリンピック出場を応援しています。平成30年に鹿屋での事前合宿に招いた際、選手たちは子どもたちの温かい出迎えに、非常に感激していました。

そのタイ代表チームは、1月上旬から始まる最終予選で優勝すればオリンピックに初出場できます。市民の皆さんにもぜひ応援していただきたいと思っています。出場が決まれば直前合宿に来ていただけるでしょう。今後子どもたちとのバレーボールを通じた交流など、交流の輪をさらに広げていければと思っています。

タイの方々には焼き芋が好きなんだそうです。実際鹿屋からも多くのサツマイモがタイに輸出されています。経済的・人的な交流を、今回のホストタウンを通じて広がっていきたいと思っています。

また、最近パラスポーツが注目を

市長 市民の皆さんが「体大があった良かった」と思えるためにも、体大生が地域や学校に向いて、一流のパフォーマンスを見せてほしいと思っています。例えば陸上部の学生が、小学校で高跳びや幅跳びを披露すれば、子どもたちは驚くでしょう。夢の世界の選手たちが鹿屋にいるんです。体大生がスポーツの素晴らしさを伝えられるような場を私たちが作っていききたいです。それが鹿屋の子どもたちにとって、他の地域になり贈り物になると思います。

大学の施設も可能な範囲で使わせていただきながら、体育大学があるという鹿屋の有利性を最大限に生かし、学長のご理解もいただきながら、次のレベルの連携強化に取り組んでいきたいと思っています。本日はありがとうございました。



対談の様子がFMかのやで放送されます。
1月4日(土) 9:00~10:00
【再放送】1月5日(日) 19:00~20:00



▲今回の対談の進行を務めていただいたFMかのやの前原さとみさん(右)と、鹿屋体育大学広報特任専門員の西みやびさん(左)と記念撮影